

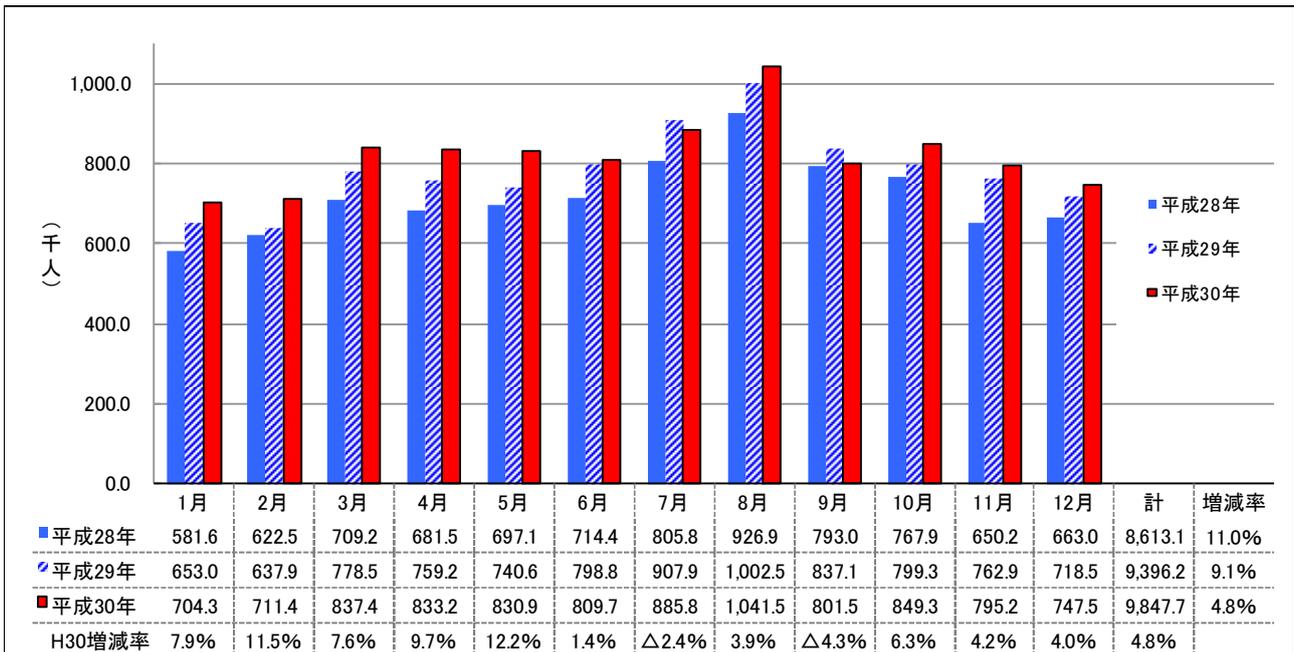
平成 30 年（暦年）沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
平成 31 年 1 月発表
(令和元年 11 月修正)

平成 30 年（暦年）の観光客数は、984 万 7,700 人で過去最高

対前年（H29）比 +45 万 1,500 人、+4.8%

■月別入域観光客数の推移（平成 28 年～平成 30 年）



■平成 30 年（暦年）の概況（総括）

平成 30 年（暦年）の入域観光客数は 984 万 7,700 人で、前年比で 45 万 1,500 人、率にして 4.8% の増加となった。度重なる自然災害や麻しん発生の影響があったものの、前年に引き続き、900 万人台を記録し、6 年連続で過去最高を更新した。

前年と比べて増加した要因は次の通りと考えられる。

- 行政や民間が一体となったプロモーション活動により、沖縄の認知度向上や旅行意欲の喚起を図ったこと
- 離島直行便など国内航空路線の拡充による国内客の増加
- 海外航空路線の拡充・クルーズ船寄港回数の増による外国客の増加

■平成 31 年の見通し

景気は緩やかな回復基調にあることや、下地島空港旅客ターミナル施設の供用開始により、成田-下地島（宮古）の新規就航の予定があることや、那覇空港国内線・国際線ターミナルの連結に伴う LCC 施設の移転によりさらなる利便性向上がなされること等により、国内旅行市場は好調に推移するとみられる。

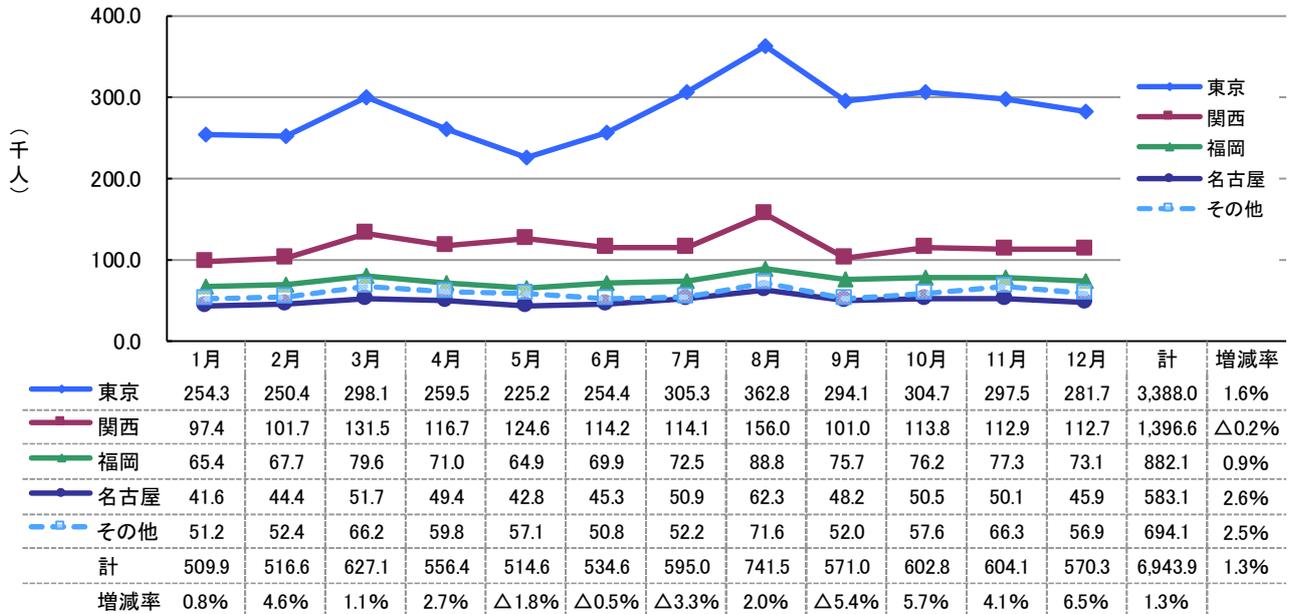
また、外国客については、香港-那覇間において LCC による運航再開予定があり、空路客の入込増加が期待されることや、クルーズ船の寄港についても増加する予定となっていること等から、好調に推移するものと見込まれる。

国内観光客の動向

■入域観光客数（国内）

平成 30 年（暦年）の国内客は、過去最高の 694 万 3,900 人で、対前年比で 8 万 9,900 人、率にして 1.3% の増加となった。これまでの暦年における国内客の過去最高の入込は、平成 29 年の 685 万 4,000 人。

■平成 30 年（暦年）国内観光客の状況（方面別の月別推移）



■国内観光客の概況

平成 30 年（暦年）は度重なる自然災害や麻しん発生の影響があったものの、景気回復基調が継続したことで全体として国内旅行需要は好調に推移した。おきなわ技能五輪・アビリンピックの開催があったことや、成田－石垣路線の新規就航等の航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。

【方面別の動向】

東京方面 成田－石垣路線の新規就航に加えて、羽田－那覇路線の増便等の航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。

関西方面 関西国際空港の一時閉鎖や台風の影響による航空路線の欠航があったこと等から、前年を下回った。

福岡方面 福岡から宮古・石垣への直行便および北九州－那覇路線の増便等の航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。

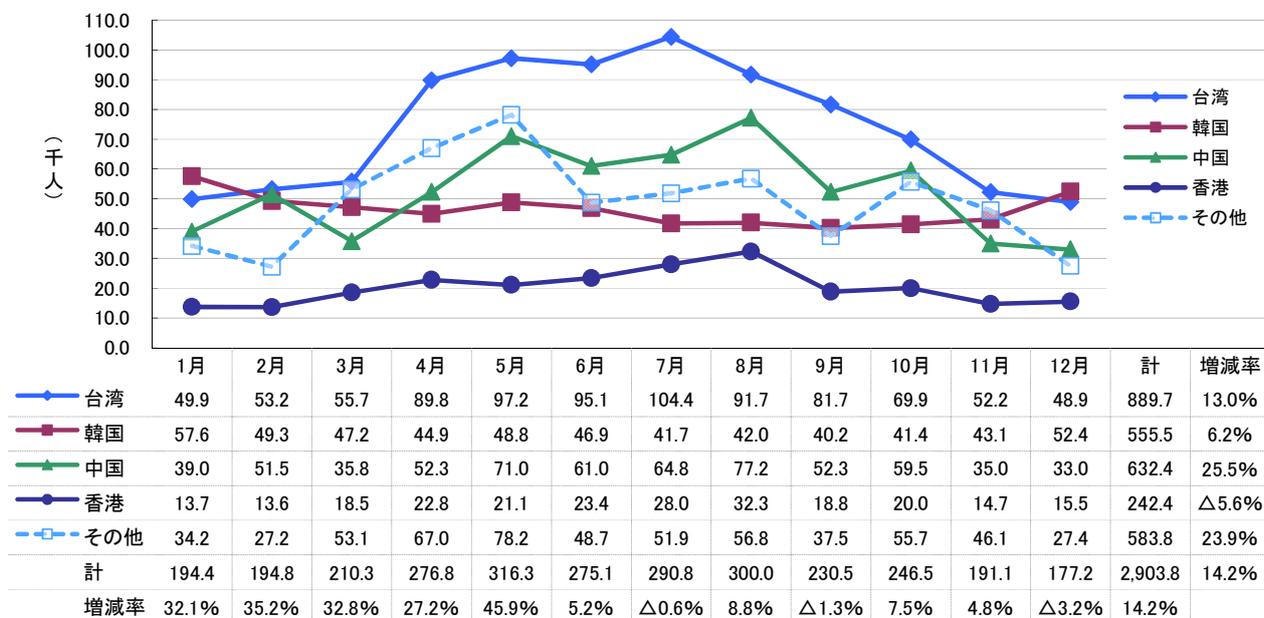
名古屋方面 名古屋から宮古への直行便および名古屋－那覇路線の増便等の航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。

外国人観光客の動向

■入域観光客数（外国）

平成30年（暦年）の外国客は、過去最高の290万3,800人で、対前年比で36万1,600人、率にして14.2%の増となった。これまでの暦年における外国客の過去最高の入込は、平成29年の254万2,200人。

■平成30年（暦年）外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



■外国人観光客の概況

平成30年（暦年）は、麻しん発生や台風の影響があったものの、昨年から引き続き、訪日旅行人気が継続していることに加え、沖縄発着航空路線の新規就航および既存路線の増便があり、空路客が増加した。

また、クルーズ船寄港回数が増加したことにより、海路客が増加した。

【市場別の動向】

台湾

ピーチアビエーションによる高雄－那覇路線の新規就航などの航空路線の拡充に加え、クルーズ船の寄港回数も昨年並みを推移したこと等により、空路・海路客ともに増加し、過去最高であった昨年を上回り、初の80万人台となった。

韓国

エアソウルによる仁川－那覇路線の新規就航を含む航空路線の拡充により、空路客を中心に増加、過去最高であった昨年を上回り、引き続き50万人台となった。

中国本土

航空路線は昨年並みを推移したものの、中国発クルーズ船の寄港回数増により、空路・海路客ともに増加、初の60万人台となった。

香港

麻しん発生や台風の影響により、空路・海路客ともに減少し、過去最高であった昨年を下回り、過去2番目の観光客数となった。

その他

ピーチアビエーションによるバンコク－那覇路線や、ジェットスター・アジア航空によるシンガポール－那覇路線など東南アジア方面での提供座席数の増加があった。